

津市小中一貫教育 ～小学校から中学校への系統的・連続的な教育の実施～

平成26年度スタート 【当初の主な課題】 ○基礎的な知識、技能を活用する力の不足 ○家庭学習習慣の未定着 ○中学校進学時の不登校生徒の増加

【目的】学力の向上・学校生活の充実・豊かな人間性や社会性の育成

学力の向上

授業改善への主な取組

【授業改善】



- 積極的な授業改善
 - ・授業方法の研究
 - ・専門家からの指導
- 小中合同研修会

【多様な人材の活用】



- 多様な人材の活用
 - ・授業力向上支援員
 - ・津市臨時講師
 - ・特別支援教育支援員等
- 小学校での教科担任制
- 乗り入れ授業

【英語力の向上】



- ALT（外国語指導助手）、英語教育推進指導員による外国語活動の充実
- 英語教育推進研修会開催による授業力の強化
- 英語ボランティアの活用

両輪としての取組

課題を解決するための2つの柱

【これまでの取組】

学校生活の充実

安心して過ごせる学校づくりへの主な取組

【指導の方向性統一】



- 生活のきまりの統一
- 家庭学習の手引き作成
- 読書活動の推進
- ・中学校区への図書館司書の配置

【学校生活の不安解消】



- 児童生徒の交流活動
 - ・人権フォーラム
 - ・合同文化祭
- 不登校の未然防止
- ・欠席状況等の情報共有

【地域の教育力の活用】



- 保護者・地域との合同活動
 - ・避難訓練
 - ・清掃活動
 - ・ノーメディアデーの取組

学力の向上

平成31年度 全国学力・学習状況調査の結果より

津市と全国の平均正答率の比較 (％)

	国語		算数・数学	
	本市	全国	本市	全国
小学校	64	63.8	67	66.6
中学校	71	72.8	60	59.8

「すべての書く問題で最後まで書くことと努力した」と回答した児童・生徒の割合 (％)

	国語			算数・数学		
	本市	全国	全国との差	本市	全国	全国との差
小学校	83	80.4	2.6	82.9	80.7	2.2
中学校	81.9	79.8	2.1	63.9	60.8	3.1

平成31年度の全国学力・学習状況調査の結果は、中学国語を除き、全国平均正答率を上回り、改善が図られました。また、同調査の児童・生徒質問紙における国語及び算数・数学の、書く問題に関する質問で、「全ての書く問題で最後まで書くことと努力した」と回答した児童生徒の割合は、小中学校ともに全国を上回りました。無解答率も、小中学校ともに全ての教科で全国平均を下回るなど改善が見られ、児童・生徒が最後まであきらめず、問題に挑み続けようという姿勢がうかがえます。

これらは、学力や学習意欲の向上に向けた授業改善や学習内容の刷新と定着を促す取組を各中学校区で実施した成果の一つであると考えています。ある中学校区では、学力調査の分析結果をもとに課題を共有し、家庭学習の習慣化やノーメディアの取組等を常設と連携して徹底したり、読書問題やワークシートを授業や宿題で積極的に用いて学習した内容を活用する力を強化したりする取組を校区全体で推進し、成果を上げています。

今後も、小中一貫教育の体制を生かし、9年間を見通した系統化かつ連続的な教育活動により、学力の向上を図ります。

【成果】

◆学力の向上

◆「わかる授業・できる授業」への授業改善の促進

◆小学校から中学校への円滑な接続

◆生徒指導の方向性の統一

◆地域と連携した教育活動の充実

【今後の方向性】

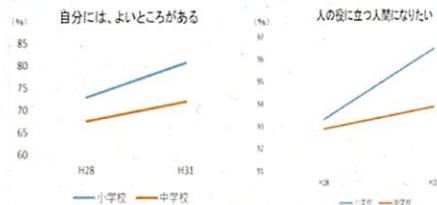
平成26年度から29年度までに全中学校区で実施した

津市小中一貫教育推進事業を礎に、平成30年度は

「小中一貫教育ネクスト事業」をスタート

自己有用感の醸成について

平成31年度 全国学力・学習状況調査の結果より



「自分には、よいところがある」「人の役に立つ人間になりたい」という質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小中学校とも上昇しています。

これは、学校の教育活動全体を通じて、子どもたちが達成感や満足感を得たり、周りから認められたりする場を設けたことで、子どもたちの自己有用感が醸成されるという考えのもと、小中が連携して取り組んだ成果の表れであると考えています。

今後も、各中学校区の特徴を生かし、小中の連携とともに、学校と家庭・地域が連携しながら、子どもたちの思いに寄り添い、子どもが生徒となって活躍できる取組を推進し、学校生活の充実を図ります。

新学習指導要領の全面実施(小学校 2020年度・中学校 2021年度)に向けて

- 学校・地域・家庭の教育力の向上
- 授業方法を確立し、「わかる授業」「できる授業」の実現